

に利用することによって展開・維持されている。しかし、①人口爆発と消費の拡大、②地球環境の劣化、③耕地の絶対的な不足、④エネルギー資源の不足、によって食料生産が十全でなくなるばかりでなく、地球上の多くの生物種を限りなく圧迫し、人為的な大絶滅 (anthropogenic massive extinction) をひき起こす可能性がある。生物種の保存すなわちほかの生物群との持続的な共生という困難な問題に直面することになってきている。

#### 「経済発展と地球環境保全」 宇沢弘文

地球環境保全の問題はすでに1960年代から識者によって指摘されてきたが、この問題が大きな社会的、経済的、文化的問題としてクローズアップされるようになったのは、1980年代の半ば過ぎてからである。地球環境問題というとき、人類全体にとっての社会的共通資本としての大気なり、熱帯雨林なり、あるいは海洋をどのような基準にしたがって、どのような形で管理したらよいかという問題を考察するものである。

社会的共通資本をどのような制度的諸条件の下で管理・運営したときに、維持可能 (sustainable) な経済発展を安定的に実現することができるかという、制度

主義 (institutionalism) の理論的枠組みのなかで考察を進めるべきではなからうか。

#### 「地球温暖化に関する科学的知見と国際的動向」

時岡達志

測器による地上気温、海面水温の観測データの解析から過去140年間に0.3~0.6°Cの増加が認められている。最近600年間の北半球夏季の気温変動によると20世紀以降の気温の高さはこの期間のほかに類例を見ないものである。1995年のIPCC第2次報告書では気候モデルを用いた計算から、現在観測されている変化には人為的な影響がすでに反映されていると考えた方がよいという結論に達している。

1992年には地球環境を悪化させないレベルに大気組成を安定化させることを目的とした気候変動に関する枠組み条約 (FCCC) が結ばれた。FCCCは1994年12月に発効し、その目的達成のための具体的な方策を議論する締約国会議 (COP) が1995年に開催され、今後毎年1回の割合で会議を開催することになっている。第3回は1997年に京都で開催される。

(福岡管区気象台 藤谷徳之助)

## 気候講演会「地球温暖化とその影響」のお知らせ

日時：平成9年2月1日(土) 14時~17時  
会場：科学技術館サイエンスホール (東京・北の丸公園、入場無料)  
主催：気象庁、(財)日本気象協会  
後援：運輸省、(社)日本気象学会、(財)気象業務支援センター  
開場：13時30分  
開演：気象庁長官挨拶 14時00分~14時10分

講演  
・「地球温暖化の検出と予測」14時10分~15時00分  
気象研究所気候研究部 野田 彰 第四研究室長  
・「地球温暖化の影響 (生態系と農業)」  
15時00分~15時50分  
宮崎公立大学 内嶋善兵衛 人文学部長  
休憩：15時50分~16時00分  
・「地球温暖化問題への対応とその課題」  
16時00分~16時50分  
慶応義塾大学大学院政策メディア研究科 芽 陽一教授  
連絡先：気象庁気候・海洋気象部海務課 前田  
TEL 03-3212-8341 (内4225)